

据付手順

- | | | |
|----------------|--|---------------|
| STEP 1 安全上のご注意 | STEP 4 室内ユニットの据付け | STEP 6 必要なときに |
| STEP 2 付属部品の確認 | STEP 5 室外ユニットの据付け | STEP 7 試運転と確認 |
| STEP 3 据付場所の選定 | ◆室外ユニットの据付けについては、マルチ
室外ユニットに付属の据付説明書に従って
ください。 | |

STEP 1 安全上のご注意 必ず守ってください

- ◆据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
- ◆据付工事後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

◆本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。



警告

死亡や重傷を負うおそれがある内容。

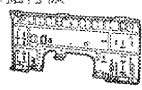






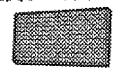
- 配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。
(発熱や感電、火災の原因)
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内にR32以外の空気などを混入させない。
(空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 指定冷媒(R32)以外は使用しない。
(機器の故障や破裂、けがなどの原因)
- 調理室など油煙の多い所、または可燃性ガス、腐食性ガスや金属製のホコリのある場所には据え付けない。
(水漏れや火災、故障の原因)
- 可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。
(ひび割れや感電、引火の原因)
- 据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
(水漏れや感電、火災の原因)
- 据付工事は、付属品および指定の部品を使用し、この据付説明書に従って確実に進行。
(ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因)
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に進行。
(ユニットの落下によるけがの原因)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、専用回路を使用する。
(感電や火災の原因)
- 据付工事は、電源を切って行う。
(電気部品に触れると感電の原因)
- 漏電しゃ断器を取り付ける。
(感電や火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、内線規程に従って所定の電線を用いて接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。
(発熱や感電、火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーなどが浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。
(端子部の発熱や感電、火災の原因)
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。
(圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。
(冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気し、据付工事後は冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
(冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因)
- 配管、フレアナット、工具はR32用、もしくはR410A用のものを使用する。
(R22の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。
(締め過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- アース工事を確実に進行。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。
(感電や火災の原因)

注意

傷害を負うおそれ、または物的損害が発生するおそれがある内容。

- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へは据え付けない。
(発火の原因)
- 室内外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない。
(けがの原因)
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には据え付けない。
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因)
◆お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。
(鋭利な板金によりけがの原因)
- ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
(屋内に浸水し、家財などをぬらす原因)

STEP2 付属部品の確認

室内ユニット				室外ユニット	
㊦据付板  1枚	㊧据付板取付ネジ M4×25L  7本	㊨リモコンホルダー  1個	㊩ワイヤレスリモコン  1個	㊪室内ユニット固定ネジ M4×12L  2本	◆マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
㊫リモコンホルダー取付ネジ M3×20L  2本	㊬乾電池単4  2本	㊭光触媒集塵・脱臭フィルター  1個	①取扱説明書 ②据付説明書 ③保証書 各1部		

STEP3 据付場所の選定

室内ユニット

- 吸込口、吹出口に障害物のない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。
(リモコンの受信距離が短くなることがあります)
- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります)
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。

室外ユニット

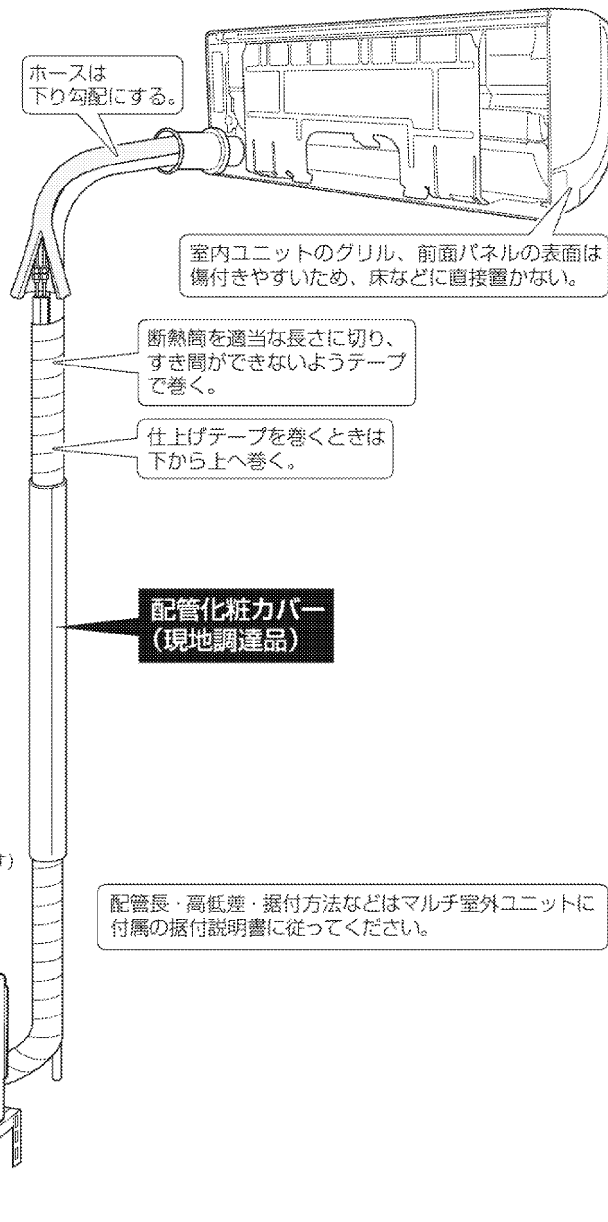
- ◆マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

リモコン

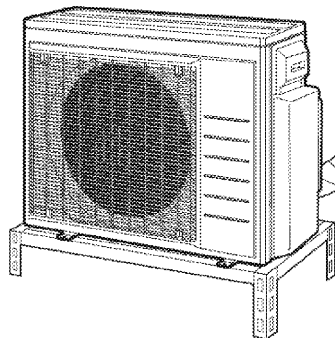
- リモコンホルダーを取り付ける場合は、取付位置で信号が受信されることを確認する。
部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させた状態で確認する。

ワイヤードリモコンを接続する場合、ストリーマおそうじサインのリセット時には、付属のリモコンが必要になります。廃棄しないようお客様に説明してください。

室内ユニットの据付所要スペースについては、STEP4 据付板を取り付ける を参照。



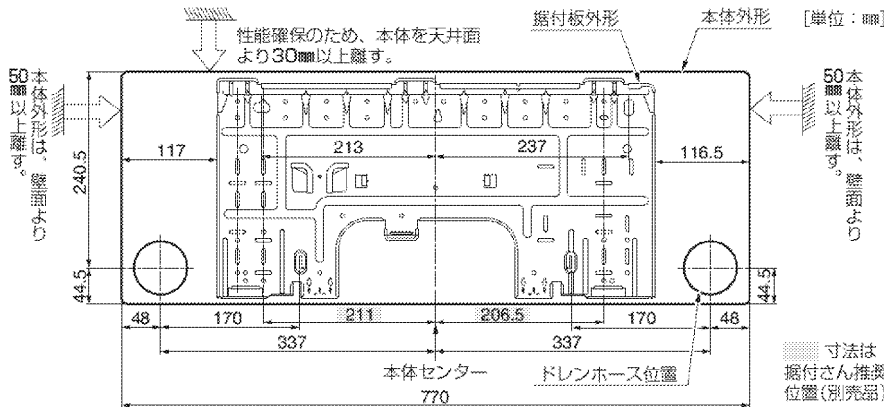
(イラストは機種によって異なります)



STEP4 室内ユニットの据付け

1 据付板を取り付ける

- ◆ ④据付板は室内ユニットの背面にあります。ネジ1本を外してください。
- ◆ ④据付板は水平に取り付けてください。



● 穴あけについて

警告
特にメタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、必ず下記の別売品を使用する。(発熱、感電、火災の原因)

貫通穴径	φ65mm以上
------	---------

- ① 室外側が下り勾配に開ける。
- ② ウォールパイプを穴に通す。
- ③ ウォールカバーをウォールパイプに差し込む。

すき間はパテ埋めをして仕上げる。
(外気侵入による結露防止のため)

● ネジ位置について

壁に固定する場合	回り縁と鴨居に取り付ける場合
----------	----------------

ネジ取付例の位置にネジ止めすることを推奨。

別売品の据付さんを用意すること。

◆ 寸法は、420~700mmまで調節できますが、420mm以下の場合、据付さんを切って調節してください。

● 石こうボードについて

- 石こうボードに直接取り付ける場合、適切な固定員を選択し、使用方法をよく確認した上で使用する。
- ◆ ねじ込み式ボードアンカーは使用しないでください。極端に保持強度が落ちる場合があります。
- ◆ 付属の④据付板取付ネジは使用しないでください。

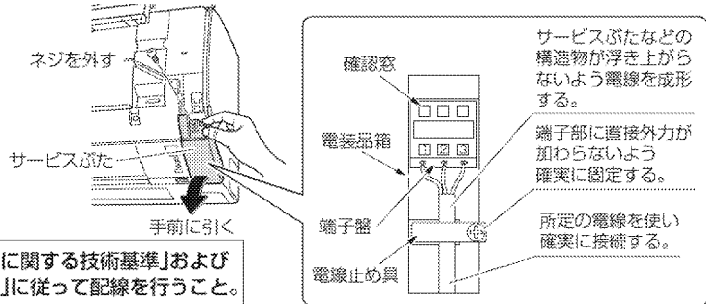
石こうボードへの取付例
(カサ式ボードアンカー使用)

2 電線を接続する

1. サービスぶたを取り外す。
2. 連絡電線を室内ユニット背面から前面へ引き出す。
3. 電線の被覆を15mmむく。
4. 電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込む。
5. 確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめる。
6. 電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定する。
7. サービスぶたを取り付ける。

■ サービスぶたの取外しかた

ネジを取り外し、サービスぶたを取り外す。

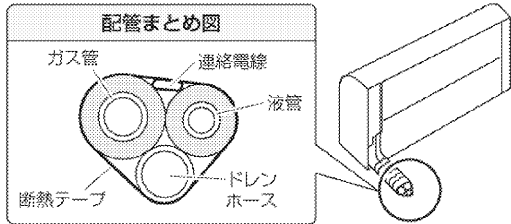


◆ 配線工事およびアース工事については、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

STEP4 室内ユニットの据付け っつき

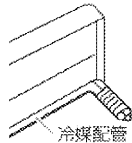
③ 配管、ドレンホース、電線を引き回す

1. 配管、ドレンホース、接続電線を引き回す。
◆ドレンホースは必ず下り勾配をとってください。
2. 配管、ドレンホース、接続電線は、断熱テープでまとめて巻く。

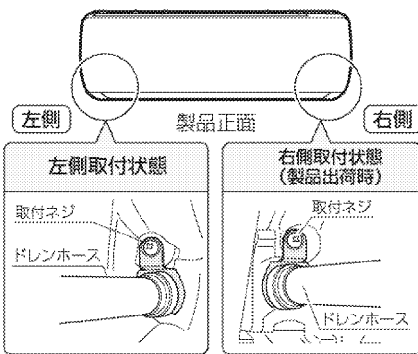


左後配管の場合

- ◆ドレンプラグとドレンホースを付け替える。
 - ①右側の取付ネジを外してドレンホースを抜き取る。
 - ②左側にあるドレンプラグを抜き取り、右側に取り付ける。
 - ③ドレンホースを差し込んで、取付ネジで取り付ける。

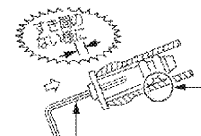


- ◆ドレンホースは製品背面にあります。



■ドレンプラグの付けかた

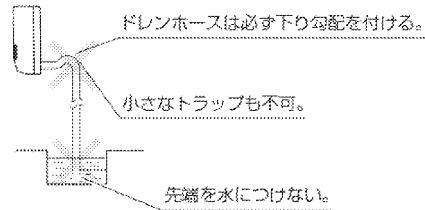
差込み時、潤滑油(冷凍機油)などを塗布しない。
(塗布すると劣化し、水漏れの原因)



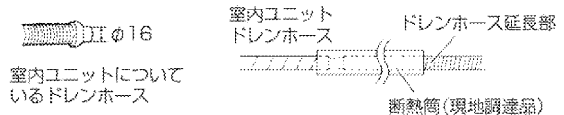
六角レンチ(対辺4mm)を使用して差し込む。

●ドレン工事について

- ドレンホースの延長または埋め込み配管を行うときは先端形状にあった部材を使用する。

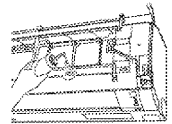


- ドレンホースを延長する場合は、内径16mmの市販の延長用ドレンホースを使用する。



室内側にあるドレンホースの延長部は、必ず断熱する。
また、延長部が抜けかないよう、引っぱり過ぎに注意する。

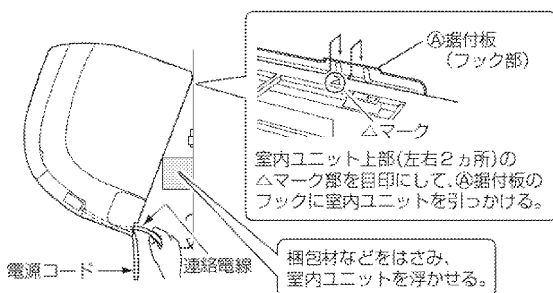
- ドレンチェックは、エアフィルターを外し、水を熱交換器に伝わらせてドレンパンにそそぎこみ、ドレンホースから水が流れ出ることを確認する。



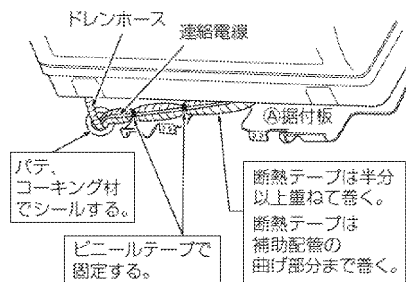
気密性の高い部屋で換気扇などを使用したときに異音(ポコポコ音)が発生する場合はドレンホース用逆止弁を使用する。
(別売品: KHDT1416を推奨)

4 室内ユニットを取り付ける

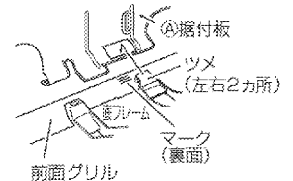
1. 配管類を壁貫通穴より引き出し、室内ユニット上部を④据付板に引っかける。
2. 配管を接続する。
◆必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。
(断熱方法と締付トルクについては、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください)
3. 底フレームのツメを④据付板に固定する。
◆梱包用テープ【青色】は外してください。



- ◆イラストは左後配管の場合です。



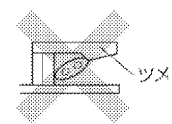
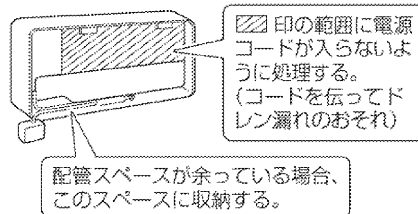
断熱テープは半分以上重ねて巻く。
断熱テープは補助配管の曲げ部分まで巻く。



●電線の処理について

接続電線、電源コードをはさまないように注意しながら、室内ユニットの下部を両手で押しつけ、ツメに引っかける。ツメが④据付板に引っかからない場合は本体をネジ止める。
(STEP7 固定強度向上についてを参照)

(電源コードが長過ぎる場合は、室内ユニットの背面部に収納する)



室内ユニット下部のツメに電源コードがかみ込まないように注意する。

STEP5 室外ユニットの据付け

◆室外ユニットの据付けについては、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

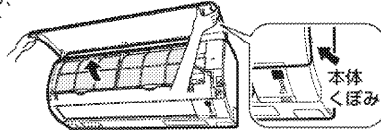
STEP6 必要なときに

HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合

前面パネルの取外しかた、取付けかた

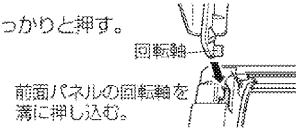
■取外しかた

- ①本体くぼみ(左右2カ所)に指をかけ、パネルが止まる位置まで開ける。
- ②さらに前面パネルを開きながら、前面パネルを左にスライドさせ手前に引き、左側の回転軸を外す。右側の回転軸は、右にスライドさせ、手前に引いて外す。



■取付けかた

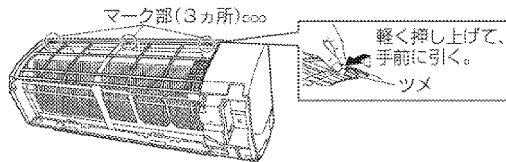
- 前面パネルの回転軸を溝に合わせ、奥まで押し込む。そのままゆっくりと閉じる。パネル下面両端とパネル下面中央部をしっかりと押す。



前面グリルの取外しかた、取付けかた

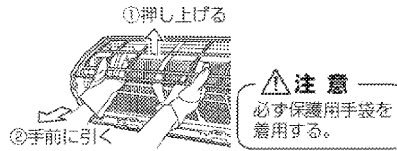
■取外しかた

- ①前面パネルを外す。
- ②エアフィルター、ストリーマユニットを取り外す。
- ③前面グリルのネジ(2本)を外す。
- ④グリルの上部にあるツメ(3カ所)を外す。(oooマークが目印)



(天井面が近く作業スペースがない場合)

- フラップ(水平羽根)を外し、前面グリルの下部を手前に引いて取り外す。外れにくい場合は、前面グリル中央の天格子の下に両手を入れ、上に押し上げながら手前に引く。



■取付けかた

- ①前面グリルを取り付け、上部フック(3カ所)を確実に引っかける。
- ②前面グリルのネジ(2本)を取り付ける。
- ③エアフィルター、ストリーマユニット、前面パネルを取り付ける。

◆室内ユニットの右側に作業スペースがある場合は、*の手順は電装品箱を取り付けたまま作業が可能です。電装品箱を外す作業はなるべく省略し、作業を効率よく行ってください。(詳細はHA基板に付属の取付説明書を参照してください)

1. 前面グリルを外す。(ネジ2本)
2. 電装品カバーを外す。[図1]
- *3. 電装品箱を外す。[図1]
 - ①連絡電線を外す。
 - ②ファン電動機用コネクタ(S200)、スイング電動機用コネクタ(S6)を外す。
 - ③サーミスタ、アース線を熱交換器から外す。(ネジ1本)
 - ④電装品箱取付ネジを外す。(ネジ1本)
4. HA基板(別売品)を取り付ける。[図2]
 - ①HA基板(別売品)を電装品箱へ取り付ける。
 - ②HA基板(別売品)のコネクタを電装品箱のコネクタ(S403)に挿入する。
5. HA接続コードを取り付ける。[図2、3]
 - ①HA接続コードをHA基板(別売品)のHAコネクタ「S21」(白色)に挿入する。(JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」は青色です。)
 - ②HA接続コードを図3のように引き回す。
- *6. 電装品箱を固定する。
 - ①電装品箱取付ネジを取り付ける。(ネジ1本)
 - ②サーミスタ、アース線を熱交換器に取り付ける。
 - ③ファン電動機用コネクタ(S200)、スイング電動機用コネクタ(S6)を取り付ける。
 - ④連絡電線を差し込む。
7. 電装品カバーを取り付ける。
8. 前面グリルを取り付ける。

図1：電装品箱の位置確認

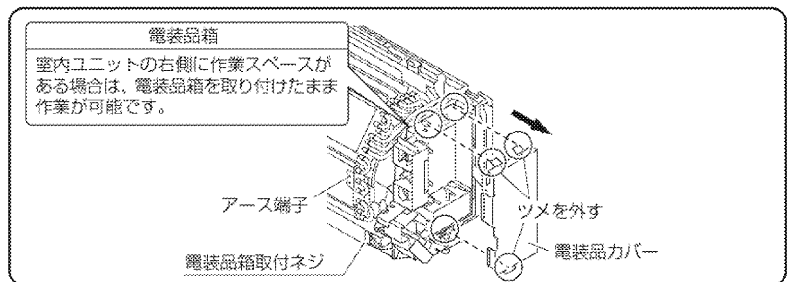


図2：HA基板(別売品)の接続箇所について

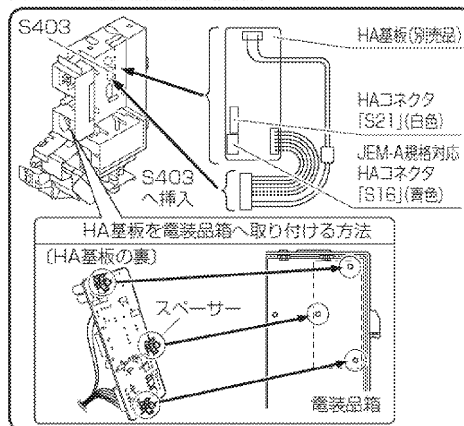
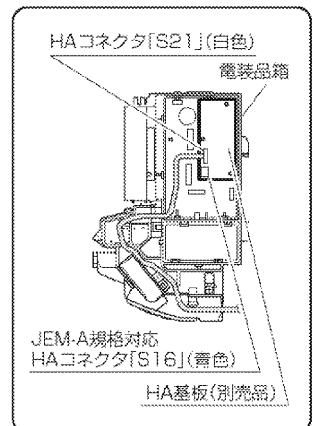


図3：HA接続コードの引き回しかた



STEP6 必要なときに つづき

同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合

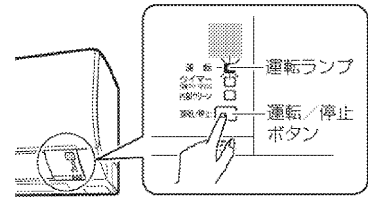
◆同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。
ジャンパカット時には、周囲の部品を傷つけないよう注意してください。

- ①リモコンの電池カバーを外してアドレスジャンパを切断する。
- ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「風量」ボタンを3つ同時に押す。
- ③温度▲ボタンを押し、**9**を選択し、「風量」ボタンを押して送信する。
(室内ユニットの運転ランプが約1分間点滅する)



④運転ランプの点滅中に室内ユニットの「運転/停止」ボタンを押す。

- 運転ランプの点滅中に設定できなかった場合は、もう1度はじめから設定してください。
- 設定後、「風量」ボタンを約5秒間長押しすると、リモコン表示が元に戻ります。



エアコンの移設や修理、廃棄するとき **ポンプダウン** 運転

- ◆家電リサイクル法により、冷媒フロン回収を実施します。撤去時にはポンプダウンの上、閉鎖弁をしっかりと閉めて指定引き取り場所に持ち込んでください。
- ◆ポンプダウン運転については、マルチ室外ユニットに付属の掘付説明書に従ってください。

フロンについて

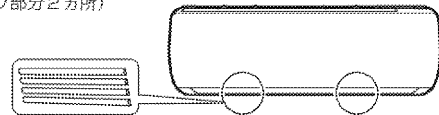


R32冷媒 家庭用エアコンには最大でCO₂ (温暖化ガス) 1,200kg (マルチシステムの場合は3,500kg) に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを注意喚起するための表示です。

室内ユニットの取外しかた

- ◆指で室内ユニットの下面を押し上げると据付板から外れます。(前面グリル下のマーク部分2カ所)



STEP7 試運転と確認

試運転を行う

◆室外ユニットの試運転については、マルチ室外ユニットに付属の掘付説明書に従ってください。

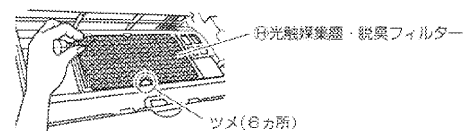
試運転前に前面グリルや各フィルターを必ず取り付ける。

- ◆試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。
- 1. コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様通りか確認する。
- 2. 冷房運転のときは設定温度を一番低い温度に、暖房運転のときは一番高い温度に合わせる。
- 3. 取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認する。
◆停止後3分間は製品保護のため運転しません。
- 4. 試運転後は適切な温度(冷房の場合26~28℃、暖房の場合20~22℃)に戻す。
- ◆冬季に冷房運転をするなどの場合は、次の方法で試運転モードにして行ってください。
 - ①温度▲ボタン、温度▼ボタン、「風量」ボタンを3つ同時に押す。
 - ②温度▲ボタンを押し、**7**を選択し、「風量」ボタンを押す。
 - ③「冷房」または「暖房」ボタンを押し、試運転モードを開始する。
◆試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。
強制的に試運転を終了させたいときは「停止」ボタンを押してください。
 - ◆試運転モードでは、一部の機能が使用できません。
- ◆エアコンを運転しないときでもいくらか電力を消費しています。掘付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、ムダな電力消費をさけるためブレーカーを切ってください。
また、お客様への引き渡し時には必ずブレーカーを入れてください。

光触媒集塵・脱臭フィルターの取付けについて

詳細は取扱説明書を参照してください。

④光触媒集塵・脱臭フィルターを前面グリルのツメ(6カ所)にしっかり取り付ける。

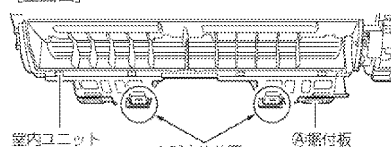


固定強度向上について

- ◆固定強度向上のため、室内ユニットを④据付板にネジ止めすることをおすすめします。
 - ①前面グリルを外す。
 - ②室内ユニットを④室内ユニット固定ネジでネジ止める。
 - ③前面グリルを取り付ける。

■ネジ止め位置

【正面図】



【断面拡大図】



室内ユニット 据付板 配管径 室内ユニット背面形状 ④室内ユニット固定ネジ(M4×12L)

STEP7 試運転と確認 つづき

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目 チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

番号	チェック項目	不良の場合
1	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられているか？	落下、振動、騒音
2	<input type="checkbox"/> 光触媒集塵・脱臭フィルターを前面グリルに取り付けたか？	ストリーマ性能低下
3	<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行ったか？	冷えない、暖まらない
4	<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行ったか？(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部)	水漏れ
5	<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしたか？	水漏れ
6	<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認したか？	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
7	<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)はしないか？	騒音(別売品ドレンホース用逆止弁使用)
8	<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実か？	感電の危険
9	<input type="checkbox"/> 「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電線は正しく接続したか？ (電線の仕様、接続箇所)	運転不能、焼損、運転ランプが点滅
10	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込口、吹出口が障害物でふさがっていないか？	冷えない、暖まらない
11	<input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いているか？	冷えない、暖まらない
12	<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認したか？	運転不能
13	<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認したか？	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

◆この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください)

MEMO

据付手順

- | | | |
|----------------|--|---------------|
| STEP 1 安全上のご注意 | STEP 4 室内ユニットの据付け | STEP 6 必要なときに |
| STEP 2 付属部品の確認 | STEP 5 室外ユニットの据付け | STEP 7 試運転と確認 |
| STEP 3 据付場所の選定 | ◆室外ユニットの据付けについては、マルチ
室外ユニットに付属の据付説明書に従って
ください。 | |

STEP 1 安全上のご注意 必ず守ってください

- ◆据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
- ◆据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

◆本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。



警告

死亡や重傷を負うおそれがある内容。

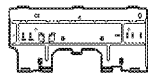






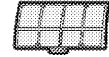
- 配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。
(発熱や感電、火災の原因)
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内にR32以外の空気などを混入させない。
(空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 指定冷媒(R32)以外は使用しない。
(機器の故障や破裂、けがなどの原因)
- 調理室など油煙の多い所、または可燃性ガス、腐食性ガスや金属製のホコリのある場所には据え付けない。
(水漏れや火災、故障の原因)
- 可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。
(ひび割れや感電、引火の原因)
- 据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
(水漏れや感電、火災の原因)
- 据付工事は、付属品および指定の部品を使用し、この据付説明書に従って確実に行う。
(ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因)
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
(ユニットの落下によるけがの原因)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、専用回路を使用する。
(感電や火災の原因)
- 据付工事は、電源を切って行う。
(電気部品に触れると感電の原因)
- 漏電しゃ断器を取り付ける。
(感電や火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、内線規程に従って所定の電線を用いて接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。
(発熱や感電、火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーなどが浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。
(端子部の発熱や感電、火災の原因)
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。
(圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。
(冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気し、据付工事完了後は冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
(冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因)
- 配管、フレアナット、工具はR32用、もしくはR410A用のものを使用する。
(R22の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。
(締め過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- アース工事を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。
(感電や火災の原因)

注意

傷害を負うおそれ、または物的損害が発生するおそれがある内容。

- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へは据え付けない。
(発火の原因)
- 室内外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない。
(けがの原因)
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には据え付けない。
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因)
◆お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。
(鋭利な板金によりけがの原因)
- ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
(屋内に浸水し、家財などをぬらす原因)

STEP2 付属部品の確認

室内ユニット				室外ユニット	
④据付板  1枚	⑤据付板取付ネジ M4×25L  7本	⑥リモコンホルダー  1個	⑦ワイヤレスリモコン  1個	⑧室内ユニット固定ネジ M4×12L (予備1本含む)  3本	◆マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
⑨リモコンホルダー取付ネジ M3×20L  2本	⑩乾電池単4  2本	⑪光触媒集塵・脱臭フィルター  1個	⑫⑬⑭ ⑫取扱説明書 ⑬据付説明書 ⑭保証書 各1部		

STEP3 据付場所の選定

室内ユニット

- 吸込口、吹出口に障害物のない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。
(リモコンの受信距離が短くなることがあります)
- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります)
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。

室外ユニット

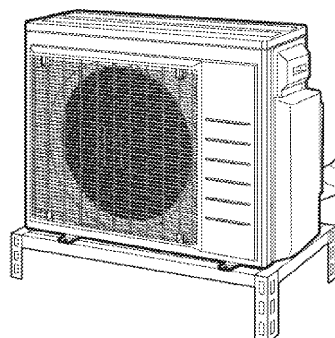
- ◆マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

リモコン

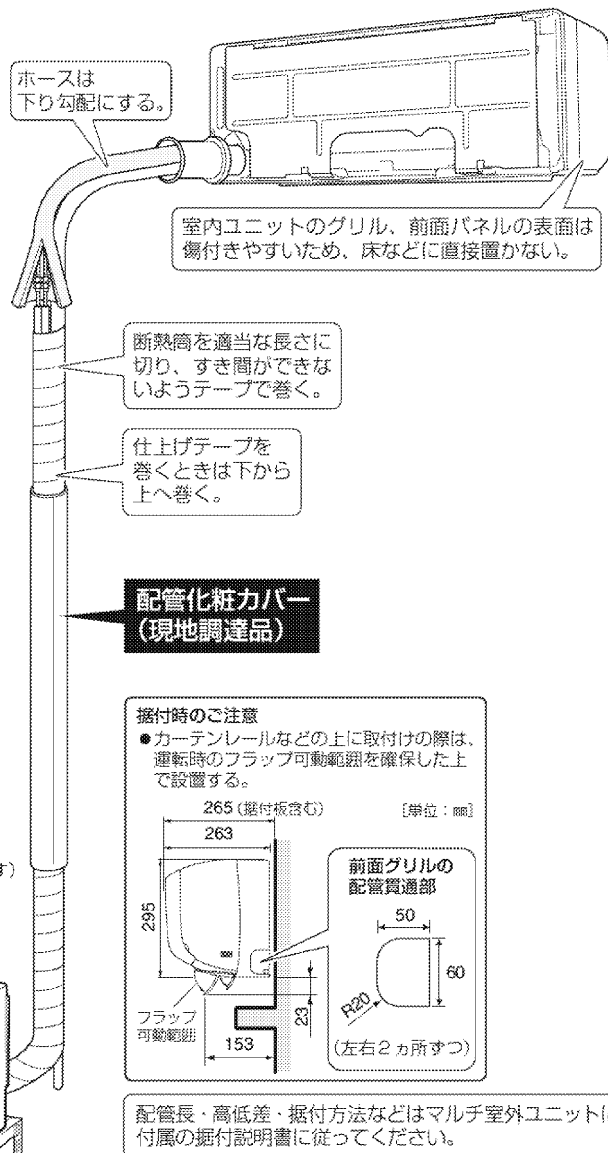
- リモコンホルダーを取り付ける場合は、取付位置で信号が受信されることを確認する。
部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させた状態で確認する。

ワイヤードリモコンを接続する場合、ストリーマおそうじサインのリセット時には、付属のリモコンが必要になります。廃棄しないようお客様に説明してください。

(イラストは機種によって異なります)



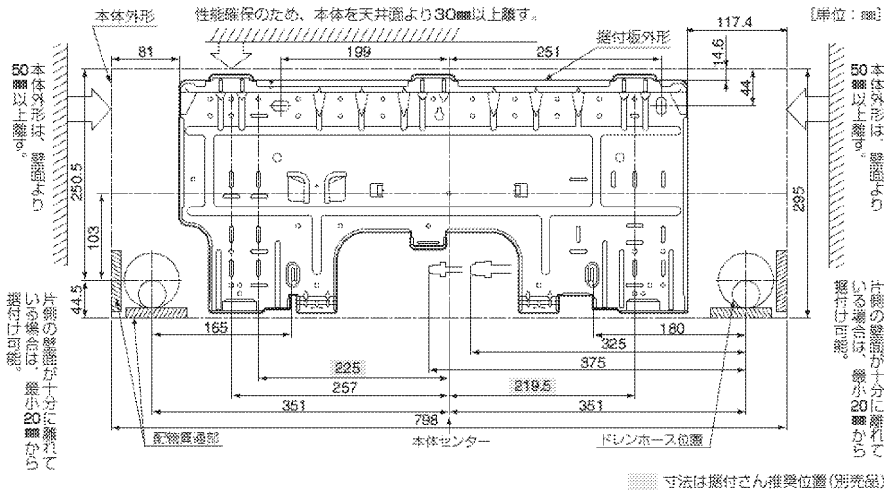
室内ユニットの据付所要スペースについては、STEP4 据付板を取り付けるを参照。



STEP4 室内ユニットの据付け

1 据付板を取り付ける

- ◆④据付板は室内ユニットの背面にあります。ネジ1本を外してください。
- ◆⑤据付板は水平に取り付けてください。



穴あけについて

警告
特にメタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、必ず下記の別売品を使用する。(発熱、感電、火災の原因)

貫通穴径	φ65mm以上
------	---------

- ①室外側が下り勾配に開ける。
- ②ウォールパイプを穴に通す。
- ③ウォールカバーをウォールパイプに差し込む。

すき間はパテ埋めをして仕上げる。(外気侵入による結露防止のため)

ネジ位置について

壁に固定する場合

ネジ取付例の位置にネジ止めすることを推奨。

④据付板
⑤据付板取付ネジ

回り縁と鴨居に取り付ける場合

別売品の据付さんを用意すること。

据付さん (別売品)
タッピングネジ (M4×8L)
木ネジ (M4×25L) (別売品と同梱)

◆寸法Lは、420~700mmまで調節できますが、420mm以下の場合、据付さんを切って調節してください。

石こうボードについて

- 石こうボードに直接取り付ける場合、適切な固定員を選択し、使用方法をよく確認した上で使用する。
- ◆ねじ込み式ボードアンカーは使用しないでください。極端に保持強度が落ちる場合があります。
- ◆付属の⑤据付板取付ネジは使用しないでください。

壁(石こうボード) 据付板 壁(石こうボード)
据付板 据付板
ねじ込み式ボードアンカーは使用しない

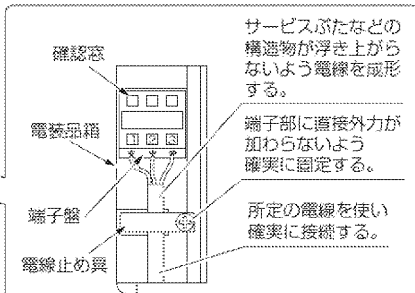
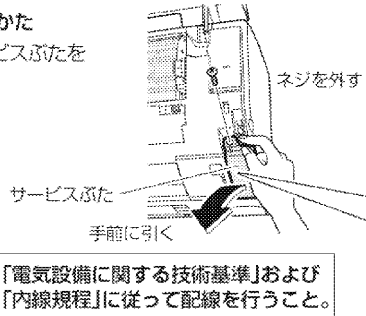
石こうボードへの取付例 (カサ式ボードアンカー使用)

2 電線を接続する

1. サービスぶたを取り外す。
2. 連絡電線を室内ユニット背面から前面へ引き出す。
3. 電線の被覆を15mmむく。
4. 電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込む。
5. 確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめる。
6. 電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定する。
7. サービスぶたを取り付ける。

■サービスぶたの取外しかた

ネジを取り外し、サービスぶたを取り外す。

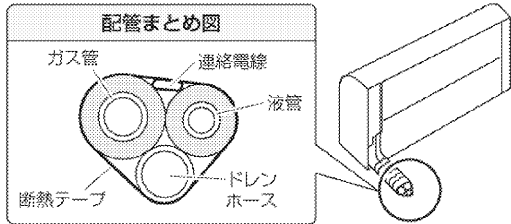


◆配線工事およびアース工事については、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

STEP4 室内ユニットの据付け っつき

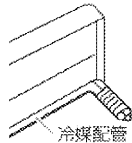
3 配管、ドレンホース、電線を引き回す

1. 配管、ドレンホース、連絡電線を引き回す。
◆ドレンホースは必ず下り勾配にしてください。
2. 配管、ドレンホース、連絡電線は、断熱テープでまとめて巻く。

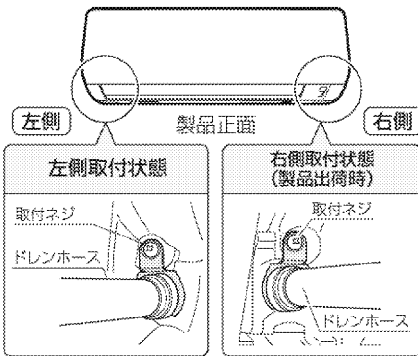


左後配管の場合

- ◆ドレンプラグとドレンホースを付け替える。
 - ①右側の取付ネジを外してドレンホースを抜き取る。
 - ②左側にあるドレンプラグを抜き取り、右側に取り付ける。
 - ③ドレンホースを差し込んで、取付ネジで取り付ける。



- ◆ドレンホースは製品背面にあります。



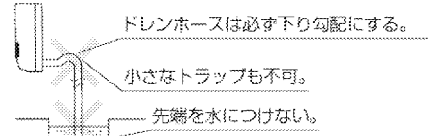
■ドレンプラグの付けかた

差込み時、潤滑油(冷凍機油)などを塗布しない。(塗布すると劣化し、水漏れの原因)

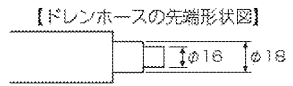


●ドレン工事について

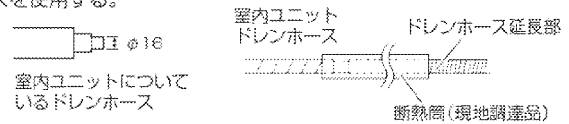
- ドレン工事は、特に次の点に注意する。



- ドレンホースの延長または埋め込み配管を行うときは先端形状にあった部材を使用する。

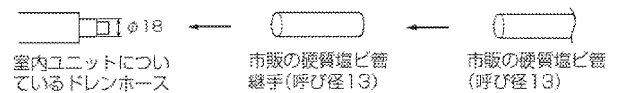


- ドレンホースを延長する場合は、内径16mmの市販の延長用ドレンホースを使用する。



室内側にあるドレンホースの延長部は、必ず断熱する。また、延長部が抜けないう、引っぱり過ぎに注意する。

- 埋め込み配管などでドレンホースに直接硬質塩ビ管(呼び径13)を接続する場合は、市販の硬質塩ビ管継手(呼び径13)を使用する。



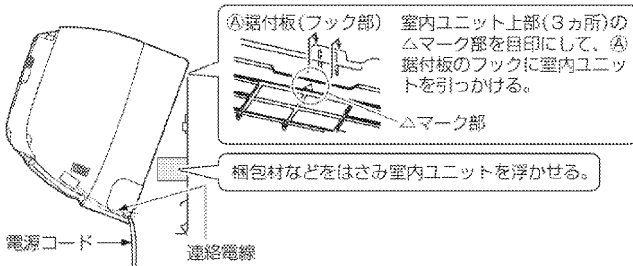
- ドレンチェックは、エアフィルターを外し、水を熱交換器に伝わらせてドレンパンにそそぎこみ、ドレンホースから水が流れ出ることを確認する。



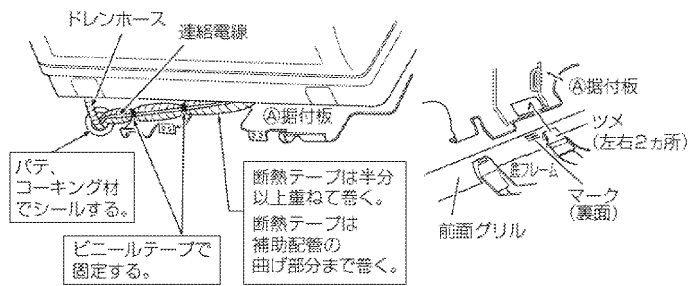
気密性の高い部屋で換気扇などを使用したときに異音(ポコポコ音)が発生する場合はドレンホース用逆止弁を使用する。(別売品:KHDT1416を推奨)

4 室内ユニットを取り付ける

1. 配管類を壁貫通穴より引き出し、室内ユニット上部を㊦据付板に引っかける。
2. 配管を接続する。
◆必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。(断熱方法と締めトルクについては、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください)
3. 底フレームのツメを㊦据付板に固定する。
◆据付後に梱包用テープ【青色】は外してください。

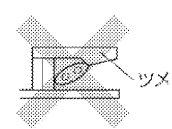
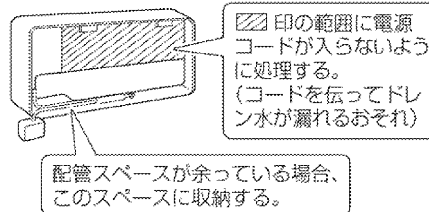


- ◆イラストは左後配管の場合です。



●電線の処理について

連絡電線、電源コードをはさまないように注意しながら、室内ユニットの下部を両手で押しつけ、ツメに引っかける。ツメが㊦据付板に引っかからない場合は本体をネジ止める。(STEP7 固定強度向上についてを参照)



室内ユニット下部のツメに電源コードがかみ込まないように注意する。

(電源コードが長過ぎる場合は、室内ユニットの背面部に収納する)

STEP5 室外ユニットの据付け

◆室外ユニットの据付けについては、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

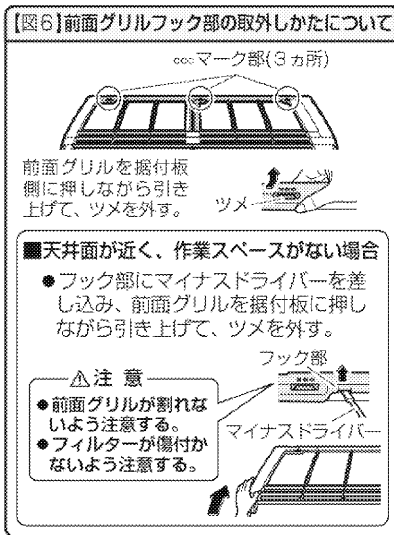
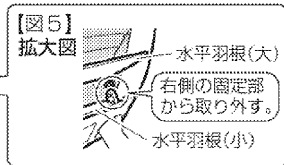
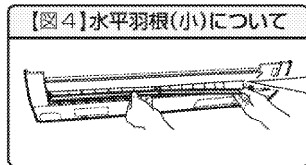
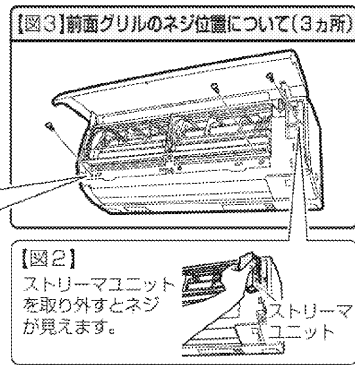
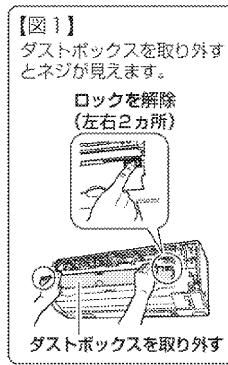
STEP6 必要なときに

HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合

前面グリルの取外しかた、取付けかた

■取外しかた

- ①前面パネルを外す。
- ②ダストボックス、ストリーマユニット、水平羽根(小)を外す。【図1、2、4、5】を参照
- ③前面グリルのネジ(3本)を外す。【図3】を参照
- ④前面グリルの上部にあるツメ(3カ所)を外す。(○○○マーク部が目印)【図6】を参照

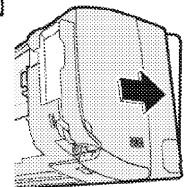


■取付けかた

【前面グリルを取り付ける際のご注意】

- ◆ダストボックス、ストリーマユニットが外されていることを確認してください。正しく前面グリルが取り付けられません。
- ①前面グリルを製品下部に合わせ、奥まで押し込む。【図7】を参照
 - ②前面グリルのツメ(3カ所)を確実に引っかける。
 - ③前面グリルのネジ(3本)で締め付ける。
 - ④水平羽根(小)を取り付ける。
 - ⑤ダストボックス、ストリーマユニット、前面パネルを取り付ける。

【図7】

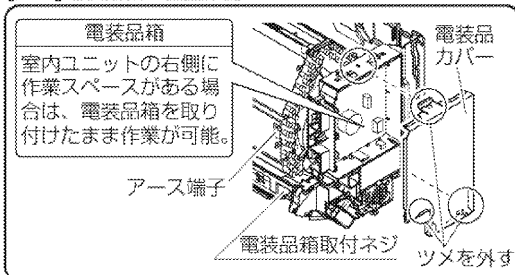


◆室内ユニットの右側に作業スペースがある場合は、*の手順は電装品箱を取り付けたまま作業が可能です。電装品箱を外す作業はなるべく省略し、作業を効率よく行ってください。(詳細はHA基板に付属の取付説明書を参照してください。)

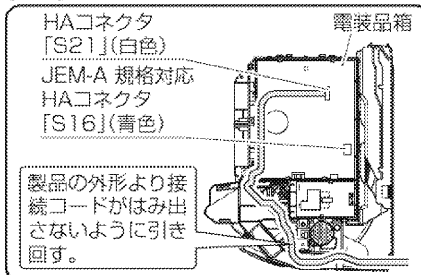
1. 前面グリルを外す。(ネジ3本)
2. 電装品カバーを外す。【図1】
- *3. 電装品箱を外す。【図1】
 - ①連絡電線を外す。
 - ②ファン電動機用コネクタ(S200)、スイング電動機用コネクタ(S63)、おそうじユニット用コネクタ(S44)を外す。
 - ③おそうじユニットの中央下部のネジを外す。(ネジ1本)
 - ④おそうじユニットを手前に少し持ち上げ、サーミスタ、アース線を熱交換器から外す。(ネジ1本)
 - ⑤電装品箱取付ネジを外す。(ネジ1本)【図3】
4. HA接続コードを取り付ける。【図2】
 - ①HA接続コードをHAコネクタ「S21」(白色)に挿入する。(JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」は青色。)
 - ②HA接続コードを【図2】のように引き回す。

- *5. 電装品箱を固定する。
 - ①電装品箱取付ネジを取り付ける。(ネジ1本)
 - ②サーミスタ、アース線を熱交換器に取り付ける。
 - ③おそうじユニットを取り付ける。(ネジ1本)
 - ④ファン電動機用コネクタ(S200)、スイング電動機用コネクタ(S63)、おそうじユニット用コネクタ(S44)を取り付ける。
 - ⑤連絡電線を差し込む。
6. 電装品カバーを取り付ける。
7. 前面グリルを取り付ける。

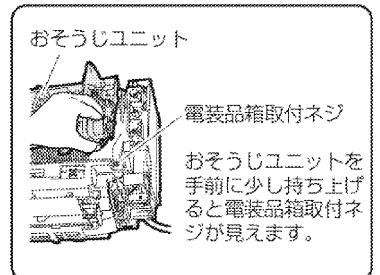
【図1】電装品箱の位置確認



【図2】HA接続コードの引き回しかた



【図3】電装品箱を取り外す場合
＜電装品箱取付ネジの位置＞



STEP6 必要なときに つづき

同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合

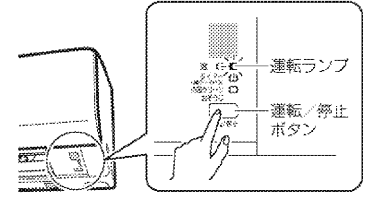
◆同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。
ジャンパカット時には、周囲の部品を傷つけないよう注意してください。

- ①リモコンの電池カバーを外してアドレスジャンパを切断する。
- ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「風量」ボタンを3つ同時に押す。
- ③温度▲ボタンを押し、**9**を選択し、「風量」ボタンを押して送信する。
(室内ユニットの運転ランプが約1分間点滅する)



④運転ランプの点滅中に室内ユニットの「運転/停止」ボタンを押す。

- 運転ランプの点滅中に設定できなかった場合は、もう1度はじめから設定してください。
- 設定後、「風量」ボタンを約5秒間押しすると、リモコン表示が元に戻ります。



エアコンの移設や修理、廃棄するとき **ポンプダウン運転**

- ◆家電リサイクル法により、冷媒フロン回収を実施します。撤去時にはポンプダウンの上、閉鎖弁をしっかりと閉めて指定引き取り場所に持ち込んでください。
- ◆ポンプダウン運転については、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

フロンについて

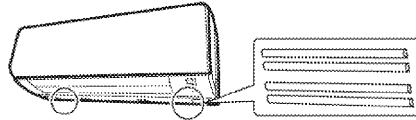


R32冷媒 家庭用エアコンには最大でCO₂(温暖化ガス)1,200kg(マルチシステムの場合は3,500kg)に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを注意喚起するための表示です。

室内ユニットの取外しかた

- ◆指で室内ユニットの下面を押し上げると据付板から外れます。(前面グリル下のマーク部分2カ所)



STEP7 試運転と確認

試運転を行う

◆室外ユニットの試運転については、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

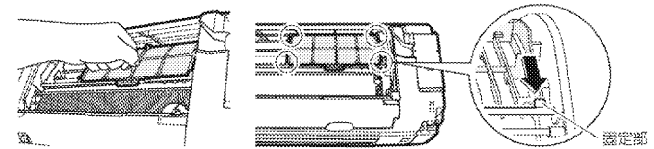
試運転前に前面グリルや各フィルターを必ず取り付ける。

- ◆試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。
- 1. コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様通りか確認する。
- 2. 冷房運転のときは設定温度を一番低い温度に、暖房運転のときは一番高い温度に合わせる。
- 3. 取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認する。
◆停止後3分間は製品保護のため運転しません。
- 4. 試運転後は適切な温度(冷房の場合26~28℃、暖房の場合20~22℃)に戻す。
- ◆冬季に冷房運転をするなどの場合は、次の方法で試運転モードに行ってください。
- ①温度▲ボタン、温度▼ボタン、「風量」ボタンを3つ同時に押す。
- ②温度▲ボタンを押し、**7**を選択し、「風量」ボタンを押す。
- ③「冷房」または「暖房」ボタンを押し、試運転モードを開始する。
- ◆試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。
強制的に試運転を終了させたいときは「停止」ボタンを押してください。
- ◆試運転モードでは、一部の機能が使用できません。
- ◆エアコンを運転しないときでもいくらか電力を消費しています。据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、ムダな電力消費をさけるためブレーカーを切ってください。
また、お客様への引き渡し時には必ずブレーカーを入れてください。

光触媒集塵・脱臭フィルターの取付けについて

詳細は取扱説明書を参照してください。

フィルターの取っ手を持ちフィルター固定部に取り付ける。
フィルター枠の四隅をしっかりと固定部に取り付ける。

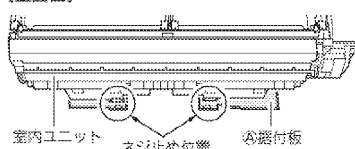


固定強度向上について

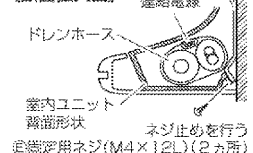
- ◆固定強度向上のため、室内ユニットを据付板にネジ止めすることをおすすめします。
- ①前面グリルを外す。
- ②室内ユニットを⑥固定用ネジでネジ止める。
- ③前面グリルを取り付ける。

■ネジ止め位置

[正面図]



[断面拡大図]



STEP7 試運転と確認 つづき

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目 チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

番号	チェック項目	不良の場合
1	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられているか？	落下、振動、騒音
2	<input type="checkbox"/> 光触媒集塵・脱臭フィルターを前面グリルに取り付けたか？	騒音、結露、おそうじ運転不能
3	<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行ったか？	冷えない、暖まらない
4	<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行ったか？(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部)	水漏れ
5	<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしたか？	水漏れ
6	<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認したか？	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
7	<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)はしないか？	騒音(別売品ドレンホース用逆止弁使用)
8	<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実か？	感電の危険
9	<input type="checkbox"/> 「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電線は正しく接続したか？ (電線の仕様、接続箇所)	運転不能、焼損、運転ランプが点滅
10	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込口、吹出口が障害物でふさがってないか？	冷えない、暖まらない
11	<input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いているか？	冷えない、暖まらない
12	<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認したか？	運転不能
13	<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認したか？	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

◆この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください)

MEMO